

2018

BUSINESS REPORT

第16期

事業概況

平成29年4月1日～平成30年3月31日

トップメッセージ



株主の皆様には、格別のご配慮とご支援を賜り誠にありがとうございます。

本事業年度当社は、北京泰徳制药股份有限公司においてPC-SOD治験薬製造に成功しました。これにより安定的な製剤供給が可能になり、ライセンスアウトの加速も期待できます。今後この治験薬を用いた臨床試験の準備を進めて参ります。一方、ノーベルファーマ株式会社との共同開発契約を結び、共同開発を開始しました。

ノーベルファーマ株式会社は高い医薬品開発の成功率を誇っており、この共同開発で当社におけるノウハウの蓄積が期待されます。また両社の事業モデルを合わせると研究から販売までの一貫した事業が可能になりますので、大きな波及効果が期待できます。また昨年度に引き続き、大学や他企業との共同研究による新たなパイプラインの創成、及び北京泰徳制药股份有限公司との密接な連携によるビジネスも推進しております。

本事業年度では、PC-SODの新たな適応症の発見、LT-4002の製剤製造検討、パイプラインの増加、新たな共同研究の開始、北京泰徳制药股份有限公司包括支援契約の延長などの成果もあがっています。

今後とも株主の皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役会長 最高技術責任者 (CTO) 水島 徹



株主の皆様には、日頃よりひとかたならぬご支援を賜りまして誠にありがとうございます。

当社は自社開発を基本に日々研究開発に取り組んでおりますが、創薬環境が激変するなか、開発スピードや成功確率アップのために同業他社との協業も選択肢として検討を重ねて参りました。その結果、医薬品の上市で実績があるノーベルファーマ株式会社との

DRIによる医薬品開発を年度末にスタートさせました。当社としては初めての試みですがシナジー効果を大いに期待しているところでございます。

また、創薬事業における治験薬確保は事業遂行上欠かせない業務分野です。当社のメインテーマであるPC-SOD開発における治験薬調達は喫緊の課題でしたが、当社指導のもと北京泰徳制药股份有限公司における製造に成功いたしました。これにより同剤の適応拡大の探索的研究から臨床試験まで幅広いステージでの取り組みが可能になって参りました。

さて、当社は受取配当金で営業損失をカバーするという収支構造が継続しておりますが、当事業年度におきましても予想を大幅に上回る受取配当金を計上することができ当期純利益1,126百万円の好決算となりました。前期比では20.0%の減益ではありますが、株主の皆様への利益還元策として前期に引き続き1株2,000円の期末配当を実施することといたしました。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 大塚 秋夫

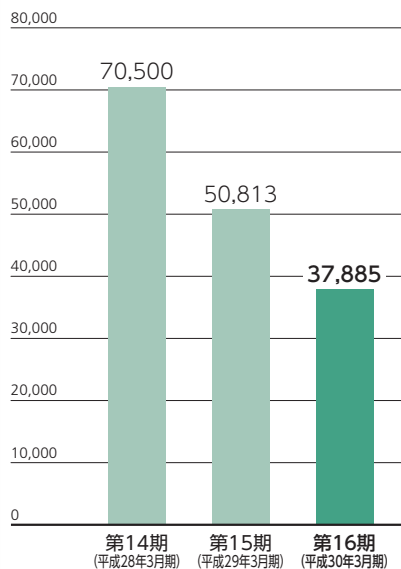
業績の概要

当社の当事業年度の売上高は北京泰徳制药股份有限公司（以下、北京泰徳製薬と称します）との包括的支援契約に基づく報酬等により37,885千円（前期比25.4%減）となりました。販売費及び一般管理費は共同開発費用の発生等により675,487千円（前期比17.9%増）となったため、営業損失は638,630千円（前期比18.6%損失増）となりました。しかしながら、北京泰徳製薬の受取配当金が2,113,660千円と前期に引き続き高水準であったことから、経常利益1,496,628千円（前期比17.6%減）、当期純利益1,126,100千円（前期比20.0%減）といずれも減益ながら好決算となりました。

決算ハイライト

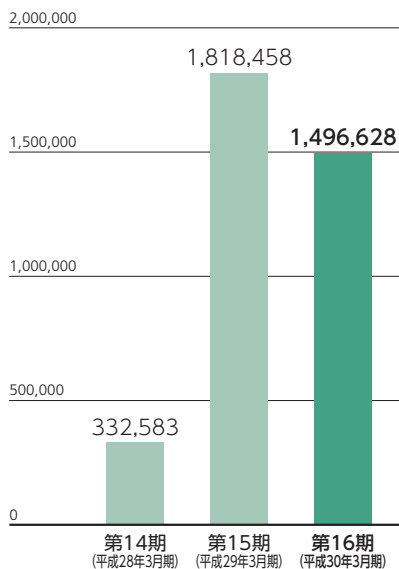
売上高

単位：千円



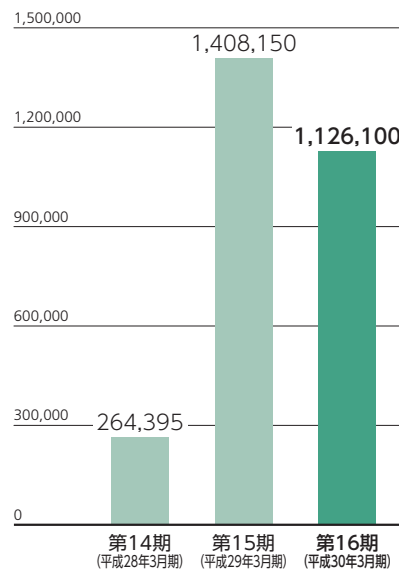
経常利益

単位：千円



当期純利益

単位：千円



研究開発の強化及びライセンス体制

●研究開発体制の拡充

前事業年度に引き続き当事業年度も新たに3名の研究員・技術員を採用し、研究活動は大きく活性化しております。聖マリアンナ医科大学寄附研究部門（自社ラボ）が中核となり、外部機関と連携して共同研究を加速させる体制が概ね整いました。

●ノーベルファーマ株式会社との共同開発基本契約締結

卓越した技術やパイプラインを持つノーベルファーマ株式会社と連携し共同で医薬品開発を行う契約を締結しました。神経領域疾患を対象に行う開発費の一部を当社が負担し、その対価として将来の利益の一部を得る事業モデルで、他にも様々なシナジー効果が期待できるものと考えております。

●北京泰徳製薬におけるPC-SOD (LT-1001) 治験薬製造

日本におけるPC-SODの臨床開発等に使用する治験薬を当社指導のもと、北京泰徳製薬で製造する体制を整えました。北京泰徳製薬は、中国において本剤の第Ⅱ相臨床試験を控えていることなどから、治験薬の製造体制が整ったことは同社にとっても大きな成果となります。

●ライセンス体制

ドライアイ治療薬（LT-4002）などの臨床フェーズにあるパイプラインを中心に、社外のライセンス専門家の意見を取り入れながら国内外での交渉を進めております。

パイプライン	対象疾患	基礎研究	非臨床試験	臨床開発		
				PhaseI	PhaseII	ライセンスアウト等
①LT-1001/PC-SOD【注射剤】	潰瘍性大腸炎 特発性肺線維症 心筋梗塞、脳梗塞 ARDS					2007年8月 北京泰徳製薬
②LT-1002/PC-SOD NE【吸入製剤】	特発性肺線維症 COPD					2011年8月CKD
③LT-2001/AS-013	慢性動脈硬化症					2009年9月 北京泰徳製薬
④LT-2003/ステルス型ナノ粒子PGE1製剤	慢性動脈硬化等					2010年11月 北京泰徳製薬
⑤LT-2004/ステルス型ナノ粒子PGI2製剤	肺動脈性肺高血圧症					
⑥LT-3001/NSAID	炎症性疾患					
⑦LT-3002	COPD					
⑧LT-4001/ドラッグリポジショニング (DR)	COPD					
⑨LT-4002,LT-4003/ ドラッグリポジショニング (DR)	ドライアイ					
⑩LT-4004/ドラッグリポジショニング (DR)	非開示					2016年3月 味の素製薬 (現EAファーマ)
⑪LT-4005/ドラッグリポジショニング (DR)	機能性ディスペプシア					
⑫LT-4006/ドラッグリポジショニング (DR)	IBS					
⑬LT-4007/ドラッグリポジショニング (DR)	神経性疾患					
⑭LT-4008/ドラッグリポジショニング (DR)	癌					

業績及び財務状況等

(単位：千円)

科 目	第15期 (平成29年3月期)	第16期 (平成30年3月期)	前期比増減
売 上 高	50,813	37,885	△ 25.4
販売費及び一般管理費	572,666	675,487	17.9
研 究 開 発 費	257,134	418,963	62.9
そ の 他	315,531	256,524	△ 18.7
営 業 損 失 (△)	△ 538,376	△ 638,630	—
営 業 外 損 益	2,356,835	2,135,259	△ 9.4
経 常 利 益	1,818,458	1,496,628	△ 17.6
特 別 損 失	1,532	1,147	△ 25.1
法人税、住民税及び事業税	408,775	369,380	△ 9.6
当 期 純 利 益	1,408,150	1,126,100	△ 20.0

Point 1

●売上高

北京泰徳製薬との包括的
支援契約に基づく報酬等

Point 2

●研究開発費

他社との事業提携による
共同研究開発費用

Point 3

●営業外損益

北京泰徳製薬からの受取
配当金

(単位：千円)

科 目	第15期 (平成29年3月末)	第16期 (平成30年3月末)
流 動 資 産	4,120,129	4,640,532
現 金 及 び 預 金	3,517,428	3,517,057
未 収 入 金	558,990	973,060
固 定 資 産	359,247	661,500
投 資 そ の 他 の 資 産	359,247	661,500
資 産 合 計	4,479,377	5,302,033
流 動 負 債	311,468	265,986
未 払 金	68,239	82,378
未 払 法 人 税 等	236,265	177,183
固 定 負 債	14,277	18,577
負 債 合 計	325,746	284,564
株 主 資 本	4,149,758	5,012,122
評 価 ・ 換 算 差 額 等	3,873	5,346
純 資 産 合 計	4,153,631	5,017,469
負 債 ・ 純 資 産 合 計	4,479,377	5,302,033

Point 4

北京泰徳製薬からの受取
配当金未収計上の増加

Point 5

満期保有目的の投資有価
証券購入による増加

Point 6

当期純利益の計上による
純資産の増加

第17期（平成31年3月期）業績見通し

売上高は北京泰徳製薬との包括的支援契約の継続による収入等で40百万円前後を見込んでおりますが、前事業年度からスタートしました共同研究費をはじめとする研究開発投資が嵩むことから、営業損益は720百万円強の損失となり、営業外損益を差し引きした当期純損益は90百万円程度の損失となる見込みです。

なお、業績見通しは、現時点における当社の予測、期待、想定等を基礎としており、例えば営業外収益の北京泰徳製薬の配当金につきましては、同社の配当政策や業績等により左右されるため、見込数値が大きく変動する場合があります。

会社情報

【大株主の状況】

株主名	持株数	持株比率
北京泰德制药股份有限公司	25,320株	19.20%
一般財団法人水島記念財団	23,375	17.72
SINO BIOPHARMACEUTICAL LIMITED.	6,500	4.92
細羽強	4,534	3.43
秋元利規	4,200	3.18
吉野友裕	3,515	2.66
遠藤賢一	2,651	2.01
佐藤智之	2,354	1.78
鶴見達也	1,670	1.26
佐野幸司	1,590	1.20

【会社概要】

名称	株式会社LTTバイオフーマ	
所在地	〒105-0022 東京都港区海岸一丁目2番20号汐留ビルディング3階 TEL：03-5733-7391 FAX：03-5733-7397	
設立	平成15年1月 前身は昭和63年4月設立の(株)エルティーティー研究所	
資本金	1億円	
役員	取締役会長	水島 徹
	最高技術責任者 (CTO)	大塚 秋夫
	代表取締役社長	大谷 培夫
	取締役	関根 準三
	取締役	謝 炳
	取締役	鄭 翔玲
	取締役	趙 焰平
	監査役	梅原 久和

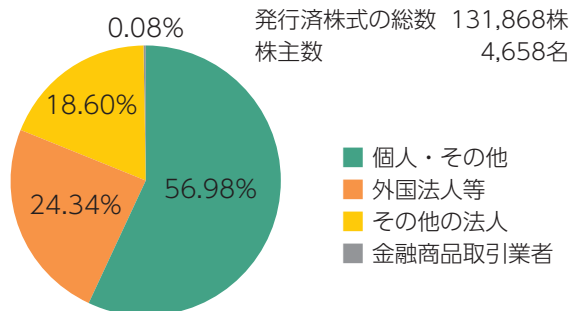
パートナーシップ

資本・業務提携 研究委託先	北京泰德制药股份有限公司 聖マリアンナ医科大学 日本大学 就実大学 武蔵野大学
------------------	---



北京泰德製薬本社(中国北京市)

【所有者別分布】



【株主メモ】

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行
同連絡先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 <お問合せ> 0120-232-711 <お手続き> 三菱UFJ信託銀行 本店・各支店
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.ltt.co.jp ※ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。